

スギ・ヒノキ花粉飛散予測のまとめ

1 各調査手法によるスギ・ヒノキ花粉の飛散数予測

表1 予測数まとめ

観測点 区市名	予測A（佐橋） （資料2 2-3頁）	予測B（横山） （資料3 3-7頁）	予測C（村山） （資料4 4-7頁）
千代田	3,270~3,770	4,100	3,698
葛飾		3,100	3,178
杉並		4,100	4,175
北		3,700	3,799
大田		3,800	4,333
青梅		8,400	9,370
八王子	6,550~7,050	5,800	6,750
多摩		5,300	6,608
町田		4,400	5,347
立川		4,200	5,085
府中		3,100	3,451
小平		2,400	2,772

（個/cm²・シーズン）

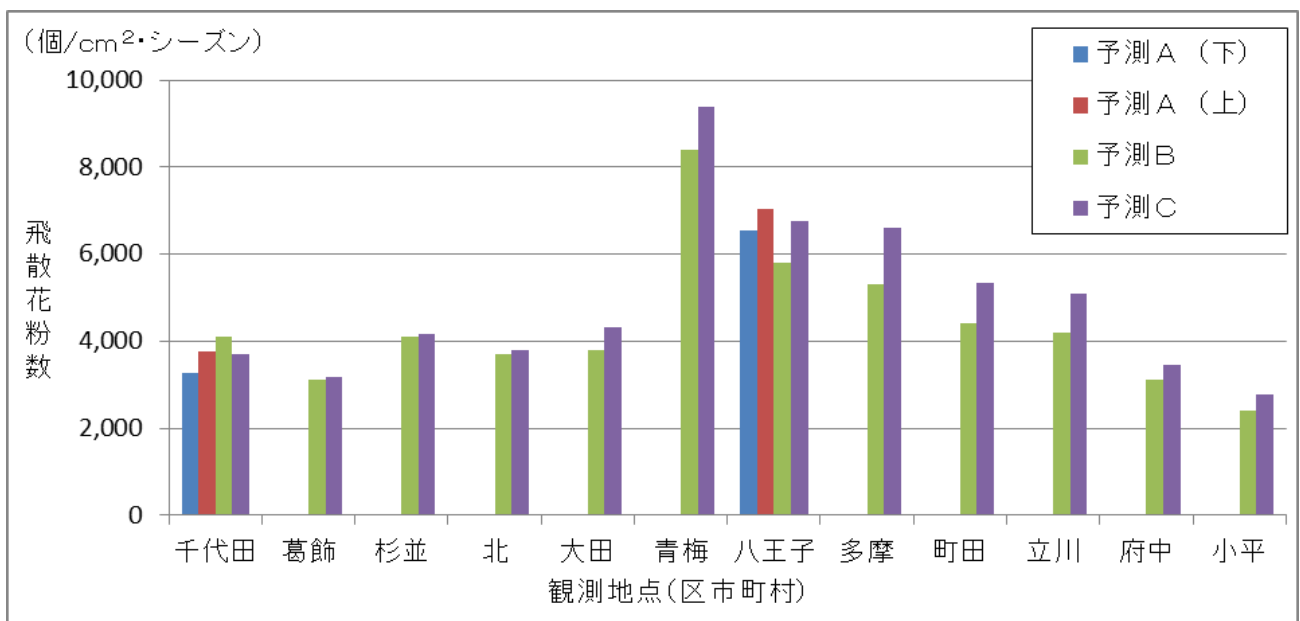


図1 飛散数予測の比較

2 予測幅の検討

表2 各予測と予測幅案

観測点 区市名	予測A (佐橋)	予測B (横山)	予測C (村山)	予測D (調整後)	下限※	上限※
千代田	3,270~3,770	4,100	3,698	3,899	3,314	4,484
葛飾		3,100	3,178	3,139	2,668	3,610
杉並		4,100	4,175	4,138	3,517	4,758
北		3,700	3,799	3,750	3,187	4,312
大田		3,800	4,333	4,067	3,457	4,676
青梅		8,400	9,370	8,885	7,552	10,218
八王子	6,550~7,050	5,800	6,750	6,275	5,334	7,216
多摩		5,300	6,608	5,954	5,061	6,847
町田		4,400	5,347	4,874	4,142	5,605
立川		4,200	5,085	4,643	3,946	5,339
府中		3,100	3,451	3,276	2,784	3,767
小平		2,400	2,772	2,586	2,198	2,974

※ 予測Dの±15% (小数点以下四捨五入)

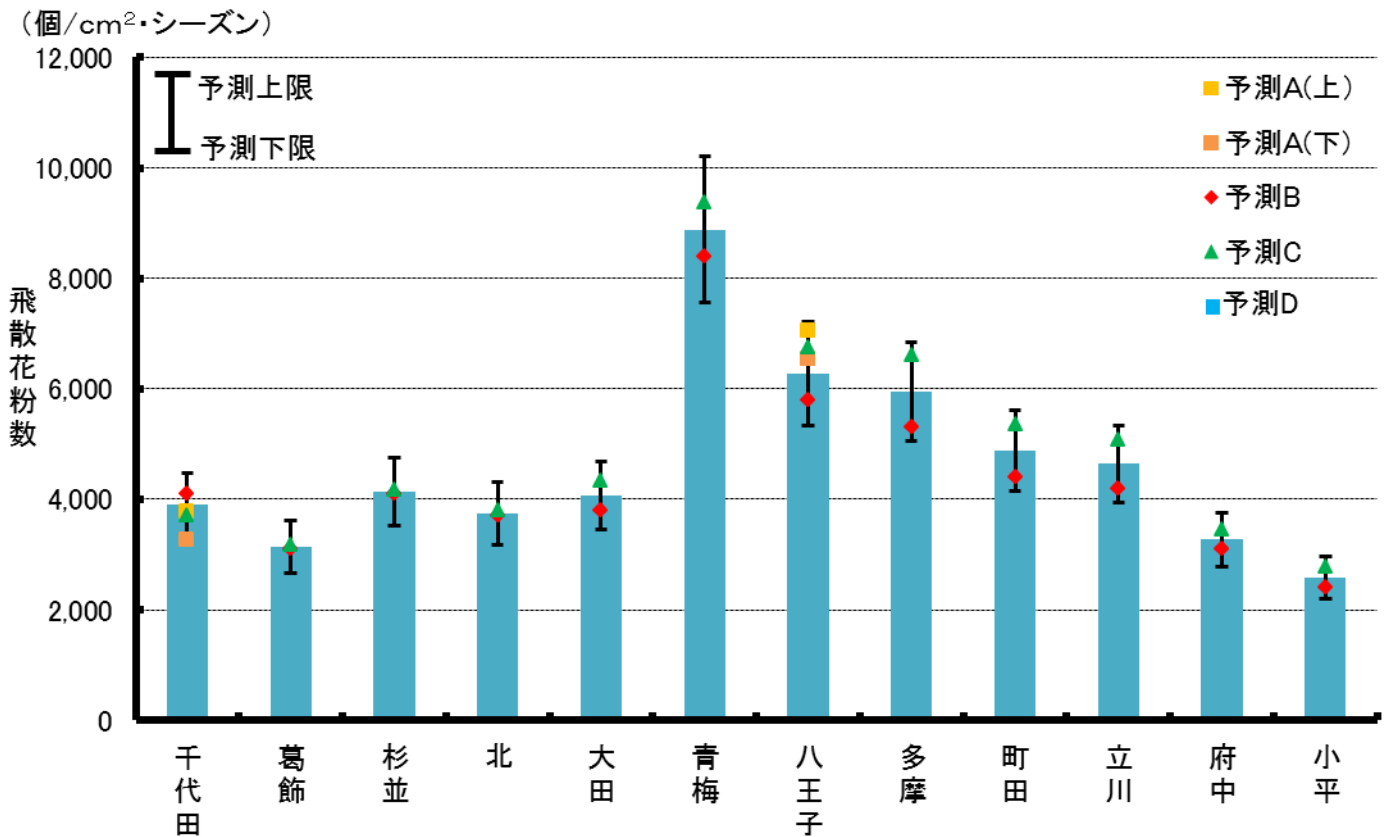


図2 予測幅案と各予測の比較

3 スギ・ヒノキ飛散花粉数予測のまとめ

表3 スギ・ヒノキの飛散花粉数予測値※1

測定点 区市名	平成29年飛散花粉数予測値 最小 最大 (平成28年比) (過去10年平均比)		平成28年 飛散花粉数	過去10年間 の平均飛散 花粉数	過去の 飛散花粉数※2	
	最小	最大			最小	最大
千代田	3,300	4,400	4,221	4,064	277	10,625
葛飾	2,600	3,600	5,730	3,751	136	8,091
杉並	3,500	4,700	5,439	4,777	118	12,897
北	3,100	4,300	4,924	4,028	242	10,618
大田	3,400	4,600	5,367	4,196	148	12,481
区部平均	3,100	4,300	5,136	4,163	—	—
青梅	7,500	10,200	13,457	11,179	125	37,899
八王子	5,300	7,200	5,887	7,815	142	24,958
多摩	5,000	6,800	5,681	7,207	1,035	21,565
町田	4,100	5,600	3,725	5,441	215	18,914
立川	3,900	5,300	3,156	5,430	1,292	19,969
府中	2,700	3,700	3,016	4,046	772	15,914
小平	2,100	2,900	2,063	2,863	291	12,345
多摩平均	4,300	5,900	5,284	6,283	—	—
都平均	3,800	5,200	5,222	5,400	—	—

※1 花粉数は、花粉飛散シーズン中に花粉捕集器（ダークラム型）のスライドガラス1cm²内に付着した花粉の個数である。
 ※2 過去の飛散花粉数（最大、最小）は都の観測開始（昭和60年）以降のものである。なお、千代田は平成2年以降、小平は平成9年以降、多摩・立川・府中は平成17年以降のものである。

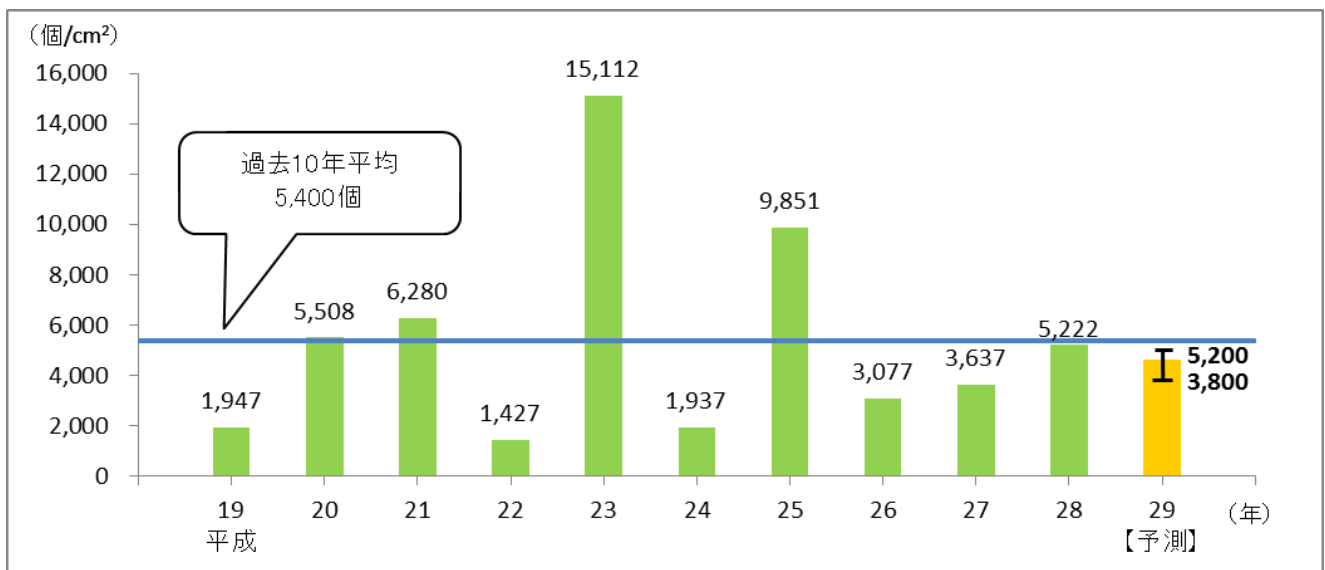


図3 飛散花粉数の経年変化（都内平均）

(年)

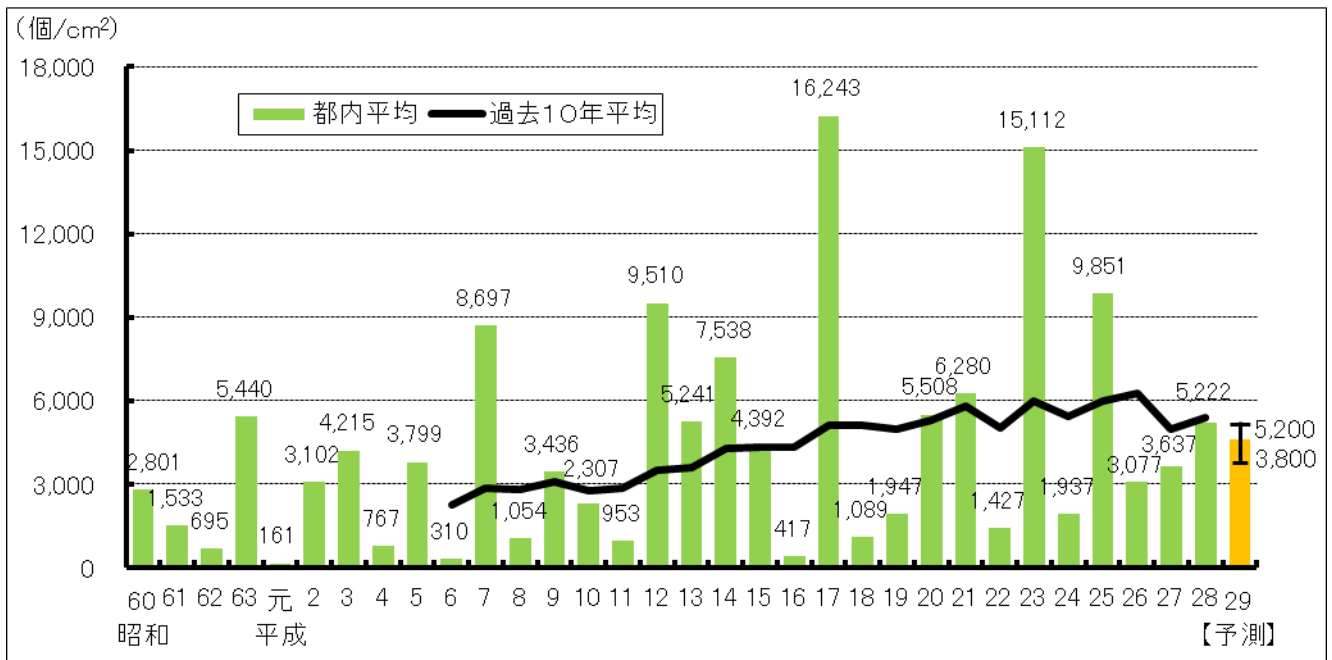


図4 飛散花粉数の経年変化

都内の飛散花粉数の経年変化を見ると、現時点の過去10年平均は、平成6年時点の過去10年平均と比べて、2倍以上に増えています。

4 飛散花粉が多い日^{※4}の予測について

	予測	平成28年春	過去10年間の平均
日数 都平均	28	39	30
(区部)	26	41	30
(多摩部)	29	36	30

※4 飛散花粉数が多い日とは、花粉捕集器（ダーラム型）で観測した数値が1日あたり30個/平方センチメートル以上の日

飛散花粉数が「多い（30個以上）」の日数は、平均で28日程度となり、昨春の39日と比べると少なく、過去10年間の平均と比べると同程度の見込みです。

5 飛散開始日の予測について

	予測	平成28年春	過去10年間の平均
飛散開始日 都全体	2月15日～18日	2月13日	2月16日

飛散開始日は都全体で2月15日から18日頃と予測され、過去10年の平均と同じ頃となる見込みです。

なお、2月初めごろに再度、飛散開始日の予測を行います。